

## 令和8年度「二条城障壁画 展示収蔵館」原画公開内容 シリーズ寛永行幸400年

	公開期間	公開内容	公開作品
春期	4月20日(月)～ 5月31日(日) 〔42日間〕	<p>背景の巨松 ～〈式台〉式台の間～</p> <p>寛永3年(1626)9月、後水尾天皇が二条城を訪れた「寛永行幸」から今年で400年です。行幸の行事は、二の丸庭園の南側に設けられた行幸御殿を中心に行われましたが、行幸四日目は、二の丸御殿大広間の南に建てられた舞台上、能が上演され、一同は二の丸御殿から鑑賞しました。招かれた一行のお付きや警備の人々は、式台の縁に座ったと記録されています。舞台からはかなり離れており、舞台の側面と橋がかりがよく見える位置でした。彼らの背後には、式台の間の巨大な松が威容を示していたのです。</p>	〈式台〉式台の間障壁画 《松図》《花鳥図》
夏期	6月13日(土)～ 8月11日(火・祝) 〔60日間〕	<p>将軍、着座す ～〈大広間〉三の間～</p> <p>〈大広間〉三の間は、対面所である一の間と二の間を補助する部屋です。寛永3年(1626)の寛永行幸では、〈大広間〉南の屋外に能舞台が設けられ、大御所秀忠と将軍家光は三の間から能を鑑賞しました。通常、将軍が着座する一の間でなく、三の間に座したのは異例のことでした。三の間には、繁栄を表す巨大な松と、希少性から権力の象徴とされた孔雀が描かれます。秀忠と家光は、その雰囲気を楽しむながら能を楽しんだことでしょう。</p>	〈大広間〉三の間障壁画 《松孔雀図》
秋期	9月10日(木)～ 11月8日(日) 〔60日間〕	<p>玉座を飾った障壁画 ～〈大広間〉一の間・二の間～</p> <p>行幸四日目の能上演の際、後水尾天皇の観覧席となったのが、大広間二の間です。廊下と部屋境には御簾を垂らし、御簾近くの部屋内に上畳と茵を設けて、天皇の御座としました。天皇の右には中宮、左には天皇の母である女院の御座も設けられました。天皇の背後には、一の間の大床があり、大きな老松が描かれた壁面には、牧谿筆の三幅対が掛けられていました。二の間に描かれた《松孔雀図》のうち、西の長押上に描かれた孔雀は、天皇一行の御座を見守るように飛翔していたのです。</p>	〈大広間〉一の間障壁画 《松竹錦鶏図》《花卉図》 〈大広間〉二の間障壁画 《松孔雀図》
冬期	11月19日(木)～ 令和9年1月17日(日) ※12月29日～31日は休館 〔57日間〕	<p>華麗なる宴の場 ～〈黒書院〉一の間・二の間～</p> <p>〈黒書院〉は、寛永行幸の際、幕府側が、朝廷側の人々をもてなした場です。二の間には、宮家や摂家、先の大官等、身分の高い人々の、三の間は門跡の、四の間から東廊下には公卿や殿上人の宴席が設けられました。今回紹介する〈黒書院〉一の間・二の間の障壁画は、濃彩で描かれた、桜や梅が咲き誇る春の景色を中心とし、長押上には、水墨技法を用いて古代中国の風景が描かれます。もてなしの場を華やかに演出した障壁画を、是非ご覧ください。</p>	〈黒書院〉一の間・二の間障壁画 《桜花雉子図》《楼閣山水図》